

## データセンター事業におけるIPv6の取り組み状況 ～弊社の事例から～

---

2015.10.28

株式会社インテック

先端技術開発本部 先端技術研究所

ネットワーク&アウトソーシング事業本部 N&O事業推進部



## 目次

---

### ・弊社の紹介

- ① 弊社のデータセンター事業
- ② 弊社のデータセンターにおけるIPv6対応状況と背景事情
- ③ 弊社のIPv6対応の取り組み
- ④ IPv6対応におけるメリット・デメリット
- ⑤ お客さまからのIPv6対応についての代表的なご意見と弊社の考え
- ⑥ 今後の展開

# 株式会社インテックについて

## 株式会社 インテック

### ■ 商号の由来

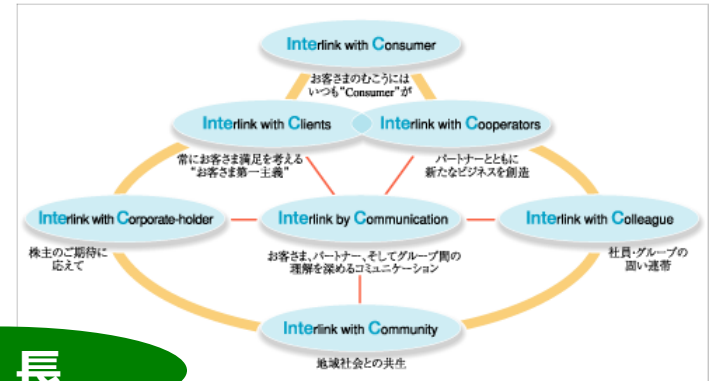


INTEC の社名はつぎのような意味を含めてつくられました。

- INFORMATION TECHNOLOGY (情報技術)  
増大するデータから価値ある情報を創造し提供する技術
- INTERNATIONAL TELE-COMMUNICATION (国際情報通信)  
ナショナルからインターナショナルへグローバルな情報通信技術
- INTEGRATED TECHNOLOGY (システム技術)  
未来を予見する情報技術をベースとし、各種各様な科学・工学を包括する技術などの略称であり、またそうしたすべての分野に意欲的に取り組む集団として
- INTELLECTUAL ECHELON (創造的知的集団)  
を象徴するものであります。

<社名には、INTERLINK7Cの意味も込められています>

### ■ 私たちの行動指針 INTERLINK 7C



## 基礎データ

本社所在地	富山県富山市 (本社) 東京都江東区 (東京本社)
設立日	1964年1月11日
資本金	208億30百万円 (2014年4月1日現在)
売上高	1,034億92百万円 (2014年3月期)
経常利益	52億46百万円 (2014年3月期)
従業員数	3,687名 (2014年4月1日現在)
代表取締役社長	滝澤 光樹

## 特長

**ITのトータルカンパニー**  
 (コンサルから運用・保守までのワンストップサービス)

**安心のアウトソーシング**  
 (豊富なデータセンター、ネットワーク運用実績)

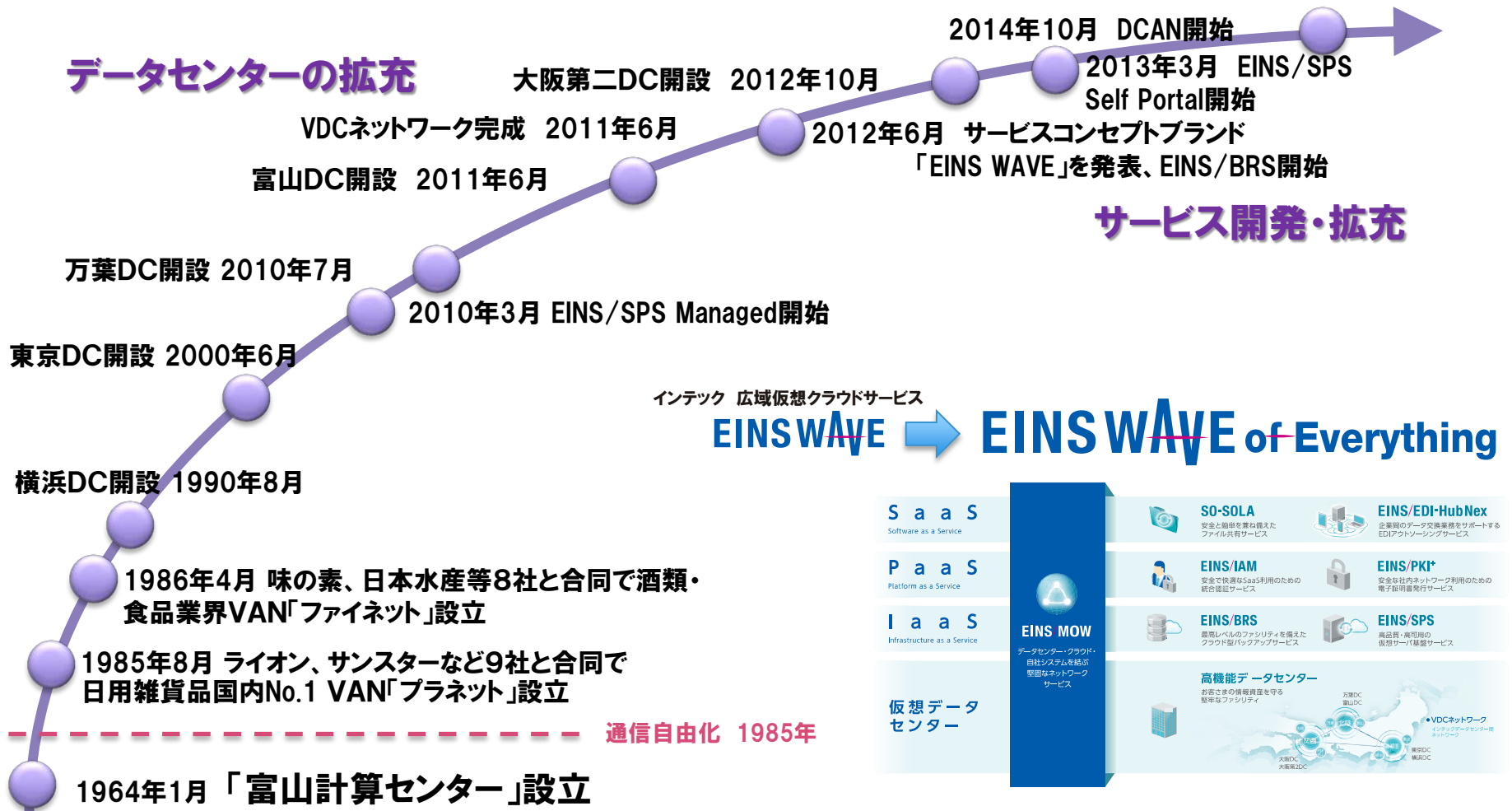
**完全マルチベンダー**  
 (独立系企業の強みを生かした自由度の高いサービス)

**コンピュータ・ユーティリティの実現**  
 (「いつでも、どこでも、誰にでも」を目指して)

**先用後利の精神**  
 (富山の薬売りから「サービスが先、利益は後」)

# ① 弊社のデータセンター事業

## ～ 企業の業務支援のためのネットワーク構築

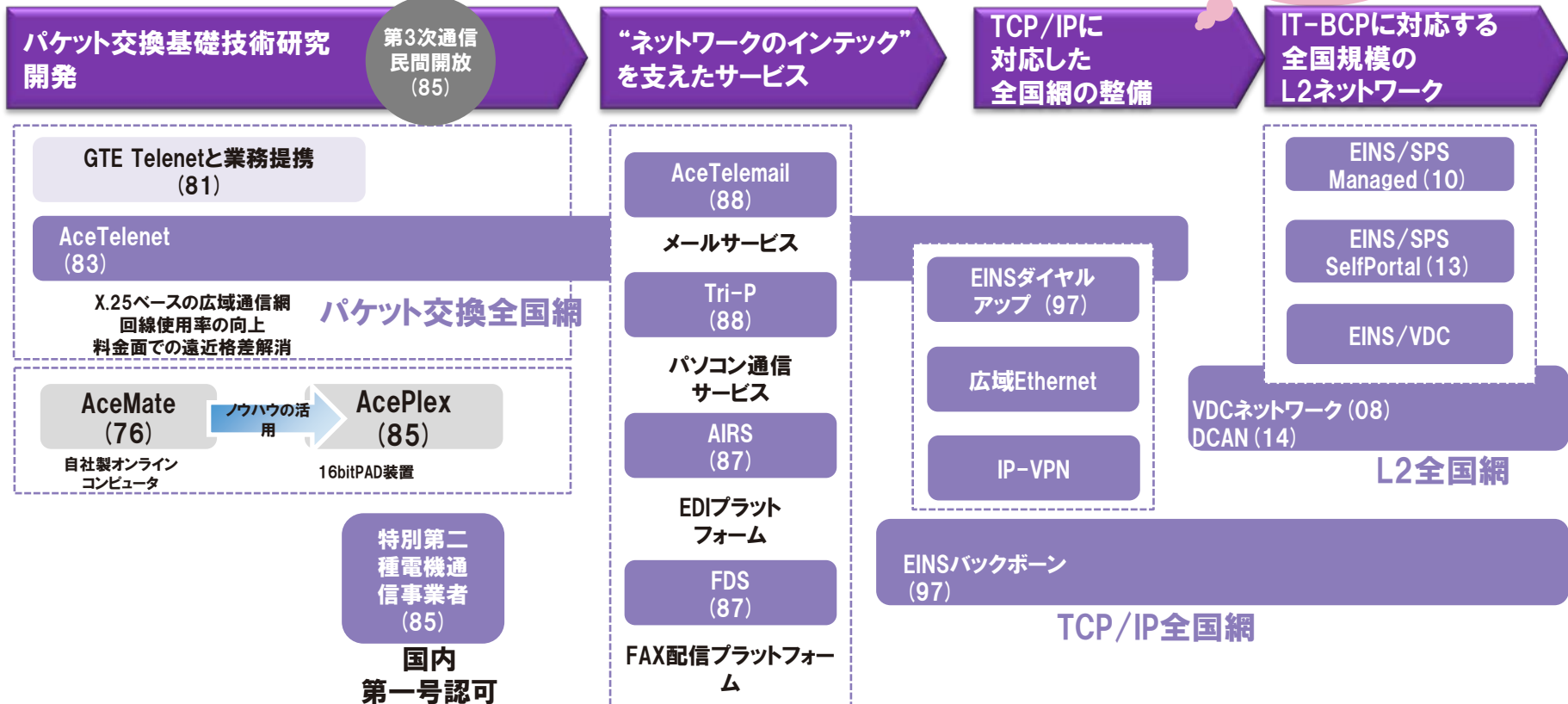


## ② 弊社のデータセンターにおけるIPv6対応状況と背景事情

どこでも「均一料金」で接続

インターネットの出現  
オープン/ホストの併存



クラウドで「いつでも」  
「どこでも」を実現



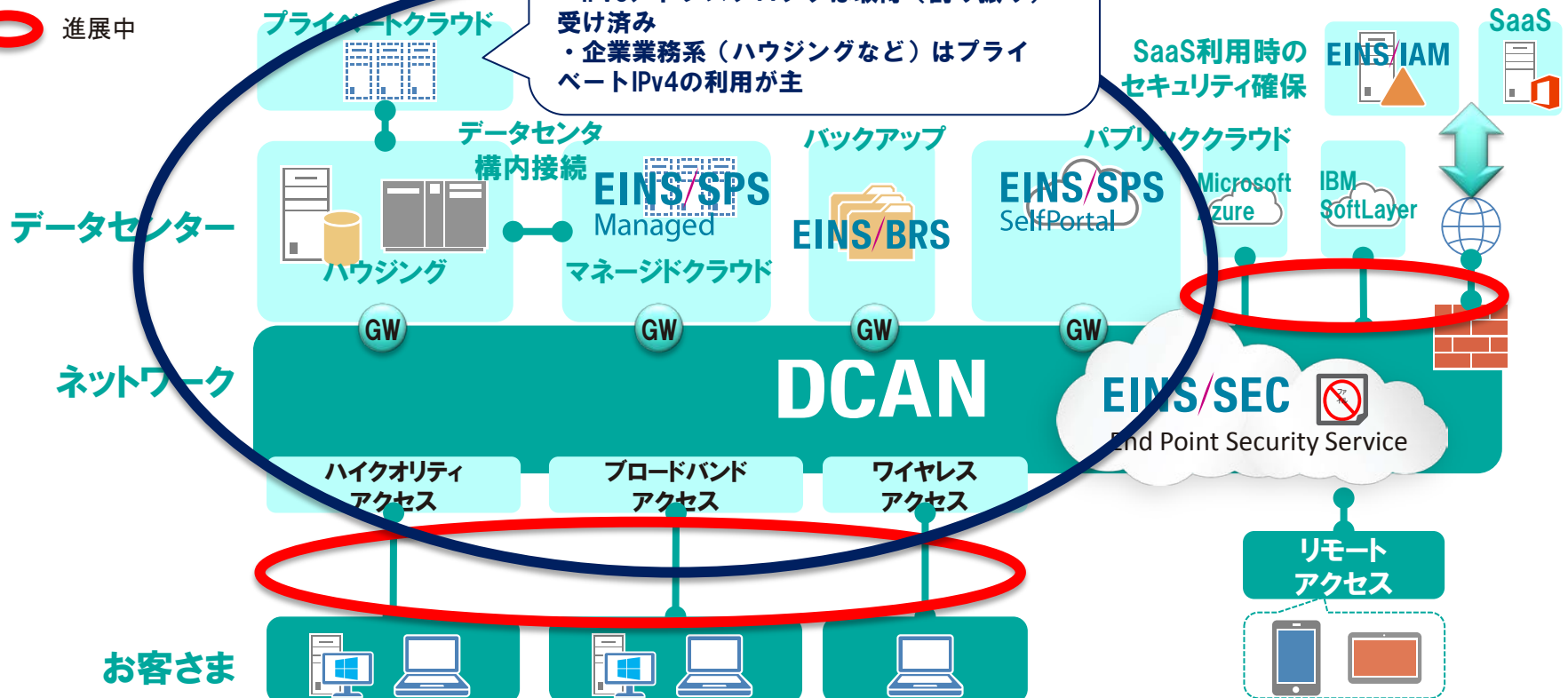
根底にあるものは「いつでも」「どこでも」  
時代に応じた役割・テクノロジーを実現しお客さまに貢献  
⇒ **IPv6も将来必要な技術として取り込む**

## ② 弊社のデータセンターにおけるIPv6対応状況と背景事情

- ・企業網と企業業務システムのためのDC。IPv6対応のブロードバンドアクセス利用者の接続部分でのIPv6対応が主。(業務システム側がIPv4の場合が多いため、IPv4 over IPv6トンネルなどを実施)
- ・近年はインターネット側に抜ける利用も増えているもの、IPv6対応はリクエストベース(リクエスト少)
- ・IPv6対応の主導権はお客様にある。お客様のニーズ掘り起し、あるいは時間経過を待つのが必要

-  なかなか進まない領域
-  進展中

・この5年の調達機材は概ねIPv6対応済みのものを導入  
 ・IPv6アドレスブロックは取得(割り振り)受け済み  
 ・企業業務系(ハウジングなど)はプライベートIPv4の利用が主



### ③ 弊社のIPv6対応の取り組み

- ・IPv6対応に向け、2002年に子会社「インテック・ネットコア」を戦略的に設立
- ・自社内外へ、業界活動を通じて、IPv6対応を広く先導
- ・研究開発や業界活動で得た知見と、社内で得た知見を還流させる働き

2002年  
 NW基盤研究の  
 戦略子会社、イ  
 ンテック・ネット  
 コア設立

#### グループ内展開

- ・社内横断検討会(2006年)
- ・IPv6導入検討報告書、機材適用ガイドライン(2006年)
- ・人材育成教材(2011年)、など

#### 顧客支援

- ・「ビジネスon IPv6」Webサイトでの情報提供(2006年)
- ・キャリア、ISP、法人、学術機関などへのコンサルや導入支援、など

#### 研究開発

- ・マルチプレフィックスに関する調査研究
- ・Fallback調査、開発言語調査、ミドルウェア調査等
- ・機材検証、省庁や企業の実証実験
- ・標準化活動、など

#### 業界活動

- ・IPv6統計計測(2002年)
- ・IPv4枯渇時計(2008年)
- ・アプリケーション対応ガイドラインなど
- ・各団体内でのワーキンググループ活動など
- ・雑誌などへの寄稿、など

## ④企業向けDCのIPv6対応におけるメリット・デメリット

### • メリット

- ① 拡張性の確保
- ② 新事業展開時にIPアドレスで困らない。複雑なネットワークにしないで済む。
- ③ 先行者メリットの享受
- ④ 運用管理におけるコスト削減
  - 巡り巡って提供価格の競争力やサービス拡充など別の投資ができる。
  - 差別化、サービス価値の向上に貢献する。

### • デメリット

- ① ハウジング利用者までひっくるめて全て対応となると長いタイムスパンで見る必要がある
  - 対応させるサービスと終了させるサービスの見極めも必要
  - 現場判断ではなく、収益に係る経営判断を仰ぐ必要が出てくる
- ② 事業者側とお客様双方に対して情報提供や教育が必要
  - 情報を最新にする必要もある)
- ③ 利用中の業務システムを止めずに対応させる技術や管理機能が求められる
  - ミッションクリティカルな業務システムは特に止められない
  - リスクやコストをかけずに実施したい



## ⑤お客さまからのIPv6対応についての代表的なご意見と弊社の考え

### お客さまの声

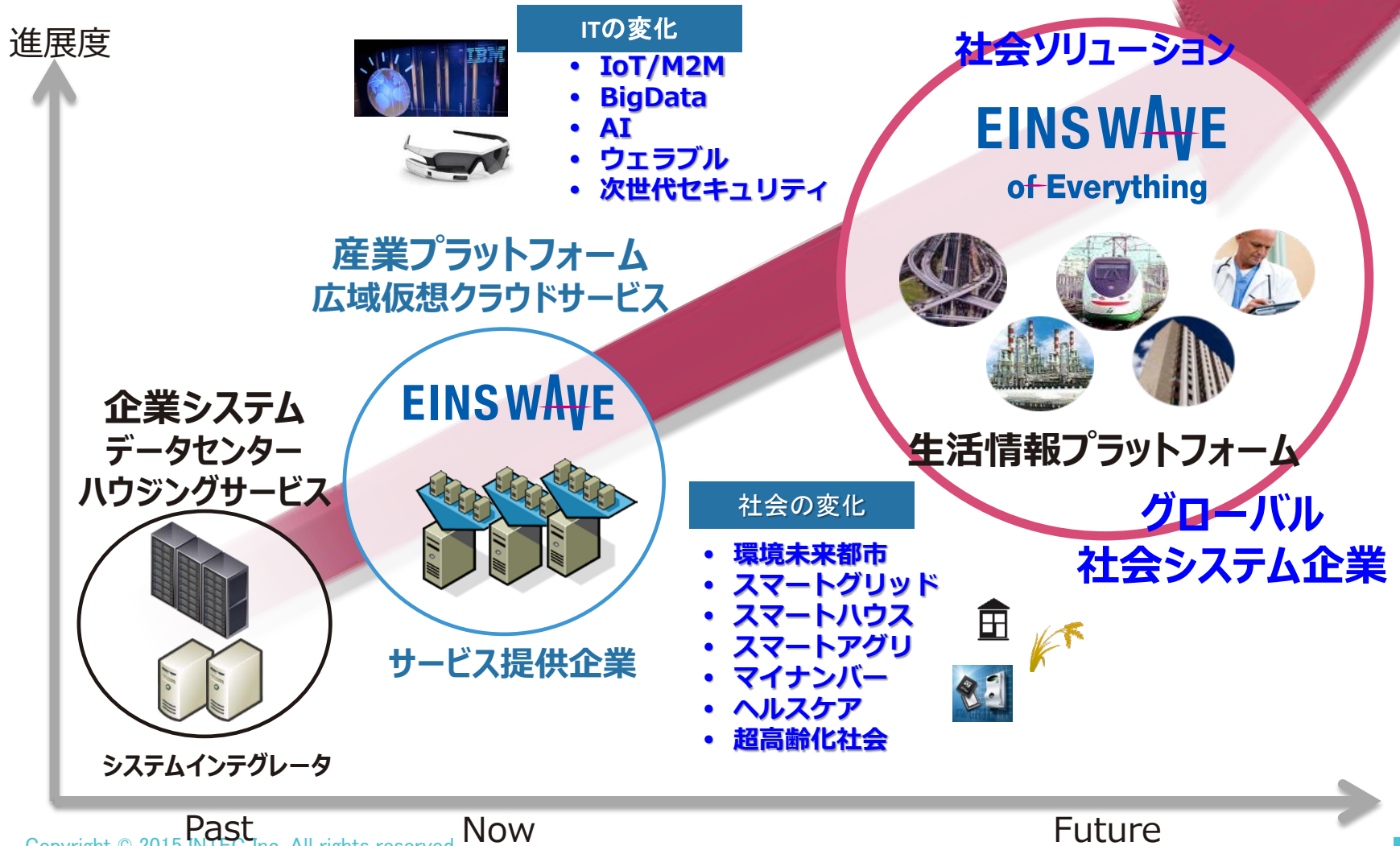
- 社内網は既存IPv4で問題がおきていない
- 一方、国外拠点とのVPNではIPv4のアドレス枯渇を受けてIPv4-VPN接続が困難になってきている
- Webサイト等は、自発的には進め難いが、Xデイを設けてもらえれば実施する
- IPv6を進めることで、税制優遇などあれば嬉しい

### 弊社の考え

- **お客さまと社内双方への教育、普及啓蒙**
  - IPv6をめぐる最新動向の提供や適切な提案の実施
  - 企業網内におけるIPv6デフォルト端末の存在とその脅威を啓蒙
  - 提案活動のできる要員への教育の実施等、地道にこれまでの活動を継続
- **技術の確立と研鑽**
  - システムの停止をせずに、対応させるためのマイグレーション手法や手順の確立
  - サービス利用料の高騰や追加なしで実施するための技術検討
  - IPtracebackなどIPv6導入によるセキュリティ対策の転換の検討
- **サービスや価格の競争力向上**
  - アセットマネジメントによるコストダウンの実現やサービスラインアップの充実

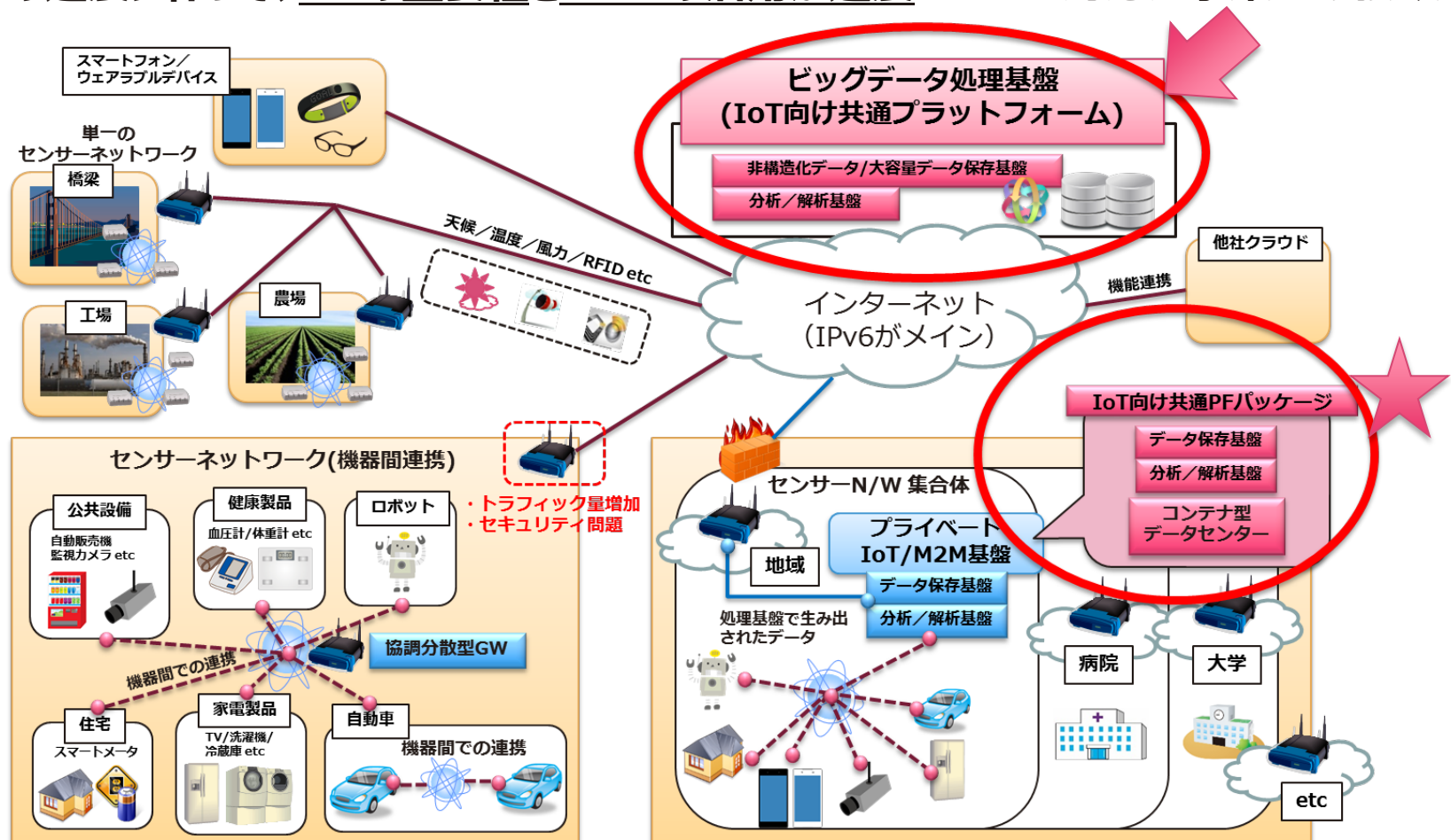
## ⑥今後の展開

- 国内データセンター事業の「プラットフォーム化」が進むことを予想
- インテックでは、「グローバル社会システム企業」に向けた取り組みを開始



## ⑥今後の展開

- ・2015年8月に「IoT向け共通プラットフォーム」提供開始（矢印部分）  
将来的には、クラウドからエッジ側へプラットフォーム基盤機能の分散を予定（★部分）
- ・IoTの進展に伴って、DCの重要性とIPv6の活用が進展→IPv6対応が事業上の強みに





**INTEC**

IT Holdings Group

| Go Beyond